

# 異文化コミュニケーションを踏まえた英語指導について

スクーリング講座「異文化コミュニケーション」コース

2011年6月22日(水)

## 1. はじめに

現在、英語やマナーを教えることがある。英語を話す為には、勿論、英語自体を学ぶ必要はあるのだが、同時に大切なことは英語を話す国や、また様々な国の文化や習慣も学ぶ必要が大いにあるとは、常々感じてきた。

今回、石橋眞知子先生の「異文化コミュニケーション」コースを受講させて頂くことで自分自身が異文化コミュニケーションについて再度、深く学びたいという気持ちがあった。

## 2. 異文化体験について

以前、7年間外資系の航空会社に勤務をしており、今までに世界の様々な都市を訪れる機会があった。アジアやヨーロッパ、アメリカやオセアニア以外にも、中近東や南アフリカも訪れた。その航空会社は客室乗務員がアジア12カ国から集まっていた為、勤務中のコミュニケーションは英語であったが、それぞれの国の文化や習慣を学ぶ貴重な経験となった。

入社してすぐの訓練中のこと、同期は5ヶ国から来ていたのだが、その中にタイ人がいた。普通の会話の中で、彼女の頭をなでようとした瞬間、彼女が身をかわしたことがあった。突然のことでよく解らなかったのだが、「タイでは子供の頭には神が宿るといわれているので、人々は触れない」と、教えてくれたことがあった。文化・習慣の違いを初めて経験した出来事であった。

又、石橋眞知子先生がお話されたように、今現在でも人種差別が根強く残っているという事実を、目の当たりにしたことがある。それは香港から南アフリカのヨハネスブルクへ乗務をした時のこと、機内で急病人が出た。チーフパーサーの判断で、医師及び看護師の助けを求めてドクターコールを実施した。幸運にも一人の看護師が名乗り出て下さった。私はその時、酸素ボンベの準備をしていた為、急病人の辺りで起きていたことを後ほど同僚から聞いたのだが、急病人の家族がその看護師以外の医療関係者を、再度呼び出してほしいと要求したとのことであった。理由はその急病人は白人で、看護師が黒人だった為である。家族の命にかかわる緊急時に、その様な出来事を信じる事が出来なかったが、同時にこれが人種差別なのだ痛感した。

人種差別など日常起こらない日本で育ってきた為か、それまで社会科の授業で習うだけであった出来事が、実際に今でもなお起きていることを知らされ、衝撃的な経験として心に残っている。

### 3. 日本の文化、異文化を理解する指導

石橋眞知子先生のお話の中で、国際人としての三大条件の一つとして、日本文化や習慣を理解すること、そして国際プロトコールの第一条件は、「Local Customs Respected」(郷に入れば郷に従え)ということを学んだ。外国人のお客様が日本へ訪問した際に、日本のしきたりやマナーに基づいて接客・接待する為には、きちんと日本の礼儀作法やエチケットを理解しておかなければならないということである。

その際、テーブルマナーは勿論のこと、会議室や会食時、乗り物などの上座等のマナーの他に、日本の文化について理解しておく必要がある。以前、外国人が日本の文化について訊ねた時に、きちんと答えられない人が大変多くて、「どうして日本人は自分の国のことを知らないのだろうか？」と疑問に思う人が多いと耳にしたことがある。まずは自国を知ること、そして世界の国々との違いを認識し、学ぶ大切さを子供の頃から認識させるべきではないかと思う。そうでない限り、日本で生まれ育った子供は、自分の国の文化や風習が一般的だと思っても仕方ないであろう。

日本では英語を、授業として中学校で習い始める。ただ私の記憶を辿る限り、学校の先生から他の国の文化や習慣について授業中に聞いた記憶は、残念ながら無いのである。学校の英語の教師全員が海外生活の経験を持つことを条件にすることは、大変難しいことではあるが、少なくとも本やセミナーで学び、異文化に触れながら授業をするべきではないかと常に思うのである。そうすることによって、例えば、皆と同じことを望む日本人に対して、実はアメリカ人は皆と違うことを望む人種であるという一種の国民性も理解し、その上で英語を学ぶことで、異文化コミュニケーションを早くから意識出来るのではないかと考える。

中学生か高校生だった頃、授業の一環として歌舞伎や能を鑑賞した経験がある。その当時は、意味も内容もよく分からないまま、ただ日本の文化の一つとして授業で観に行くのだろうとしか思わなかった。今、考えれば大変勿体ない話である。もしその時に、「外国人に説明するとしたらどのように説明するのか」等という授業のまとめがあったならば、その時から日本文化の学び方が変わったかもしれないと思うからである。

### 4. まとめ

私が英語を教える際には、なるべく自身の異文化の体験や、また日本と外国のマナーの違いなどを取り入れながら、進めるようにしている。言語が違うだけでなく、世界の国々には違った文化や風習、習慣があることを意識するだけで、その後の学習に大きく変化が生じると信じている。今回の「異文化コミュニケーション」コースでは、日本と他

国との文化の違いや、宗教の違い、また言語の違いなどさらに深く知識を得ることができた。

また石橋眞知子先生のお話の中で、心に強く残ったことは「異文化コミュニケーションの根本は相手を思いやる」ということ、それはマナーと同じ考えであり、やはり人と人に関わる中で、最も大切なことなのではないかと再認識することができた。

今後、常にそのことを心に留めながら、日本人として日本の文化を、且つ異文化も理解しながら、どの国の方とも失礼の無い、心のこもったコミュニケーションを取れるよう精進したいと思う。そして今後、英語を指導していく中で、今回学んだ知識を一人でも多くの人々に伝えていきたい。